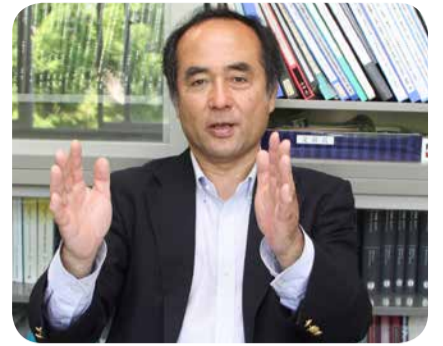


Front Line

「天下の公道」と生活道路に関する研究

—ソフトライジングボラードの定着と新たな展開にむけた実践的検討



●埼玉大学大学院理工学研究科教授
久保田尚さん

欧州で普及しているライジングボラードは、その多くが鋼鉄製である。そのため、違反車両がボラードに衝突した際は車両へのダメージが大きい。「日本では、事故の原因がドライバーの過失であっても、道路管理者への責任追及が厳しくなることが考えられます。そこで、ボラードの素材を弾力性のあるものにしなさい」と、久保田さんはゴム製のライジングボラード（ソフトライジングボラード）を上下動させる世界でも初めてとなる新たなシステムを採用した。



久保田さんが開発したソフトライジングボラードシステム。「ソフトライジングボラードユニット」「下降操作システム」「車両等検知システム」「表示器」「制御盤」で構成される

ライジングボラードは、法的に車両の通行が制限される道路への導入を前提としている。車両通行止めなど道路交通法による交通規制に連動させるパターンと、道路法に基づく歩行者専用道路のバターンがあり、ライジングボラードは法制度上、道路附属物または道路占有物として位置づけられる。

昨年、日本で初めて新潟市内の公道に導入

久保田さんは平成25年1月に埼玉大学構内にライジングボラードを設置し、悪天候時（雨天時、降雪時、積雪時）の正常な稼働と車両衝突時の安全性を確認。10月から平成26年2月にかけて新潟県新潟市古町通6番町の「ふるまちモール6」で、ソフトライジングボラードの公道社会実験を実施した（新潟市と（公財）国際交通安全学会の共同での実施）。「この実験では、公道で導入事例のないライジングボラードを、試験的に期間を定めて設置し、その影響や安全性、受容性等を調査することを目的としました」。

実験前と実験中、2台の監視カメラで通行する車両、歩行者、自転車の挙動を24時間撮影した。ライジングボラード設置前には慢性的に発生していた違反車両の通行が設置後には減少。

実験開始当初は、上昇しているボラードの踏み倒しがあつたが、すぐに解消されたという。「このことから、違反通行の抑止効果が発揮されていることがわかりました」。



車両が衝突しても損傷しないよう、ボラードの素材は弾力性のあるゴム製を採用

社会実験の結果を受け、「ふるまちモール6」での恒久設置が決定。日本では初めての導入となり、平成26年8月より本格的に運用されている。

「生活道路の安全を考える上での新たな『天下の公道』の考え方を現実化する手法として普及をめざしたい」と考え、久保田さんは「ソフトライジングボラード導入ガイドライン2015」を作成した。さらに、（公財）国際交通安全学会の新たなプロジェクトとして、学校周辺のスクールゾーンに導入するための検討を開始している。「スクールゾーンは通学時間帯に車両通行止めの時間規制が適用されているケースが多いですが、違法に通過する車両も存在しています。このような問題を解決するための手段として、ライジングボラードが有効ではないかと考えています。社会実験を行い、子どもたちの安全確保にどのような効果があるか検証したいと考えています」。



第2回 「交通安全動画・ポスターコンテスト」開催!

●テーマ「みらいの交通社会」

～人やクルマがこうなったら安心と思える動画やポスター～



人やクルマがこうなったら事故がもっと少なくなるかも!

今回は、「いろいろな乗りものを運転する人や歩く人、またはクルマやバイク、自転車などがこうなったらもっと安全になるのでは?」ということを描いた動画やポスターを募集します!明日の未来でも、100年後の未来像でも。自由な発想で描いてみてください。

応募期間: 2015年7月1日(水)～9月25日(金)(当日消印有効)
入賞作品発表: 2015年11月初旬、Honda ホームページで発表・掲載いたします
入賞作品: 動画の部/ポスターの部それぞれ大賞[1作品]/優秀賞[2作品]/Honda賞[5作品]
審査方法: Honda 社内において厳正なる選考を行い選出いたします

Honda 交通安全 コンテスト 検索

※コンテストのページ(詳細内容)は7月公開予定

TOPICS

今大会には26都府県73校から131名の選手が参加



大型二輪部門
「コーススラローム」



大阪香里自動車教習所(大阪府)・津村亮さん、大型二輪部門総合1位の月の輪自動車教習所(滋賀県)・森本友樹さん、四輪部門総合1位の山口県自動車学校(山口県)・齊藤勇輝さんをはじめ、入賞した選手に大会会長の峯川尚・本田技研工業(株)安全運転普及本部部長からトロフィーが手渡された。

教習指導員の自己研鑽への動機づけや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に2001年より毎年行われている。今大会には26都府県73校から131名の選手が参加し、各競技の審判として19校20名の教習指導員が協力した。選手は普通二輪部門、大型二輪部門、四輪部門に分かれ、運転技術の正確さやタイムを競う4種目の実技競技と、実技指導力に取り組んだ。表彰式では、普通二輪部門総合1位の大原香里自動車教習所(大阪府)・津村亮さん、大型二輪部門総合1位の月の輪自動車教習所(滋賀県)・森本友樹さん、四輪部門総合1位の山口県自動車学校(山口県)・齊藤勇輝さんをはじめ、入賞した選手に大会会長の峯川尚・本田技研工業(株)安全運転普及本部部長からトロフィーが手渡された。



四輪部門「フィギア」

●第15回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会 73校131名の教習指導員が 運転技術を競い合い、自己を磨く

6月4日、5日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)で「第15回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部、後援:一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業(株)法人営業部)が開催された。同大会は、全国の自動車